

ちいちゃんの  
白いソファ





ちいちゃんの家には、白いソファがあります。  
ちいちゃんは小さいころから、このソファが大好きです。

ねこのタマもこのソファがお気に入りです、  
いつもおひるねにつかっています。



この白いソファはとてもふしぎです。ソファにすわっていると、まるで雲につつまれたようなきもちになるのです。

ちいちゃんもタマも、いつも雲につつまれているようなゆめをみています。



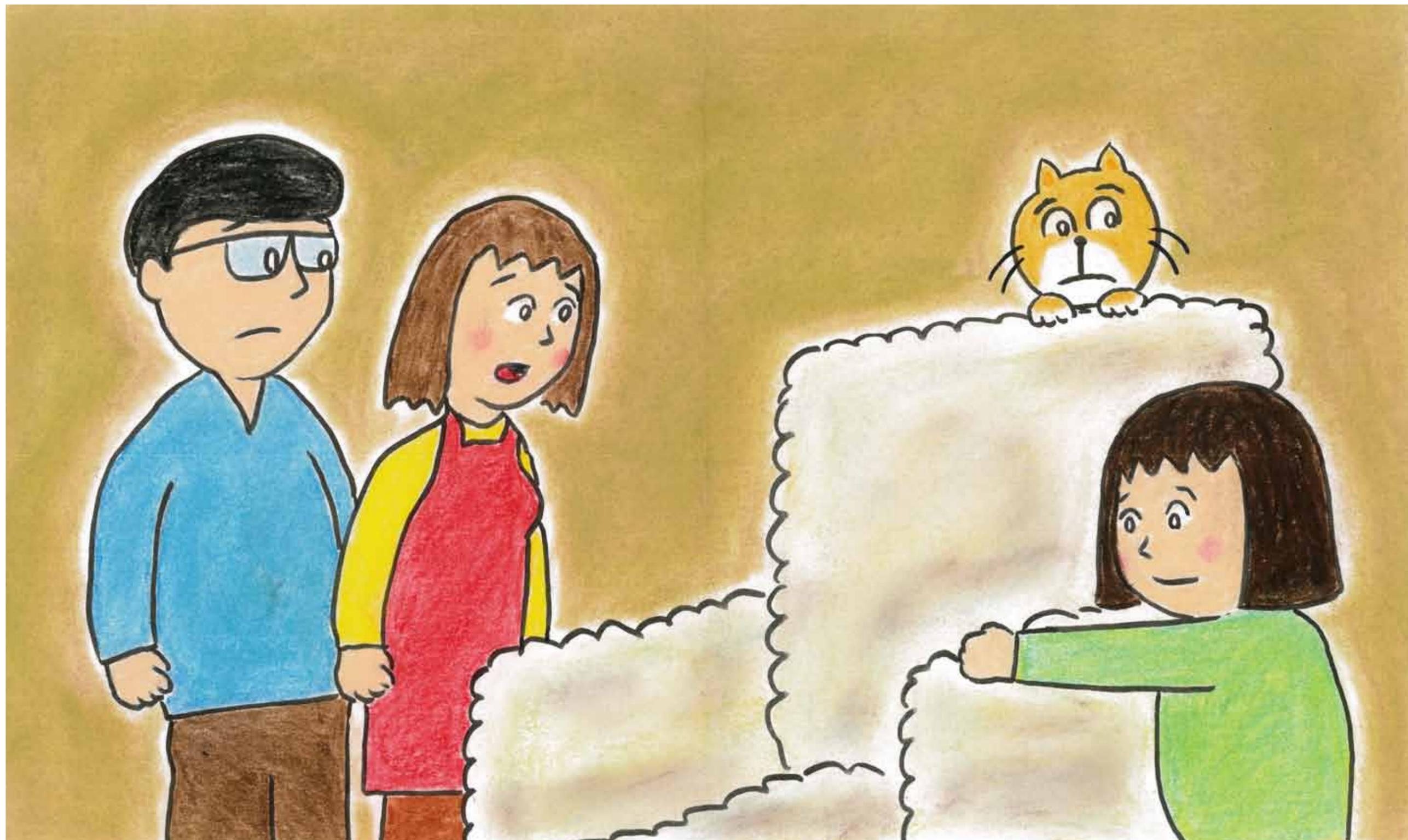
この白いソファはお母さんがむかしからついていた  
ものなので、ずいぶんよごれていました。

お母さんが、つぶやきました。  
「そろそろこのソファ、あたらしくかわないとダメね」



お父さんはこんどのにちようび、あたらしいソファを  
かいいいこう、と言いました。

ちいちゃんは、もうはんたいです。  
「わたしはぜったい、いや。このソファがすきな」



「この白いソファにすわると、お母さんや雲にだかれている  
ようで、とてもきもちがいんだよ」

ちいちゃんは、ソファからはなれません。どんなすてきな  
ソファよりも、このソファがいちばんなのです。



ちいちゃんがねてから、お父さん、お母さん、タマが  
そうだんしました。

もうすぐ、ちいちゃんたんじょう日なので、ちいちゃん  
のために、みんなでいっしょうけんめい考えました。



つぎの日、お父さんがはしごを空にむかって  
たてかけました。

そして、タマはそのはしごをのぼりだしました。  
ちいちゃんはびっくりしながら、見ていました。



タマは空にむかってはしごをのぼり、雲の上につきました。  
雲の上はふわふわしていて、とてもいいきもちです。

この雲のふわふわしたかんじは、家にある白いソファと  
まったく同じだと思いました。



タマは雲を少しだけちぎりました。そして、雲をくわえたまま、はしごをおりて家にかえりました。

お父さんは、タマのもってきた雲を家の白いソファの上にしずかにしきました。



白いソファにおかれた雲は、やがてきえていきましたが、  
よごれたソファは、きれいによみがえっていました。

ちいちゃんはソファを見てびっくりしていました。  
「わー、ソファがきれいになった！」



ソファは、前とまったく同じすわりごころでした。  
次の日のたんじょう日、お母さんがケーキをやいてくれました。

あたらしくなった白いソファにすわって、ケーキを食べる  
ちいちゃんは、さいこうのたんじょう日をむかえました。

**NOYES**  
SOFA 100%

2016年2月27日発行

著者 秋谷 正夫

発行者 株式会社 NOYES

第4回 NOYES 絵本コンクール 大賞作品